

令和7年度 学校評価報告書 **(目標設定・実施結果)**

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒個々の学びを深め進路実現を図る教育課程を編成し、学習意欲と学力を向上させる。</p> <p>②カリキュラム・マネジメントを推進し、教科横断的かつ探究的な学びを通して課題発見・解決できるグローバルリーダーを育成する。</p> <p>③特別活動等を通して主体性、社会性、協働性、創造力等の育成を図る。</p>	<p>①履修指導を通して、生徒の学習意欲と進路実現するための学力を育成する。</p> <p>②探究学習を通して、生徒の広い視野を涵養し、多角的思考力の育成を図る。</p> <p>③学校行事等を通して、協働性や主体的に集団に関わる力を養い、課題解決に向けた力や自己実現を図ろうとする力を育成する。</p>	<p>①本校の授業の魅力を整理・発信し、生徒の関心や進路との関連を重視した履修指導を充実させる。</p> <p>②講演や各行事により、多様な価値観に触れる機会を提供する。各教科における探究的活動に係る授業研究を推進する。</p> <p>③各個人、各集団が目標や課題を認識し、主体的、協働的に学校行事等に取り組めるよう、事前学習や生徒の意見交換の場を充実させる。</p>	<p>①効果的な履修指導により学習意欲や学力は向上したか。(履修登録者数や履修単位数の推移)</p> <p>②自ら課題を見出し、多角的に思考しようとする生徒の意識を醸成することができたか。(講演の振り返り、生徒による授業評価)</p> <p>③学校行事等において、主体的、協働的に取り組み、社会性の獲得や自己実現を図ることができたか。(校内外によるアンケート等)</p>					
2	生徒指導・支援	<p>①生徒指導・支援の組織的取組を推進し、生徒が安心して学べる学校づくりを進める。</p> <p>②部活動や課外活動を支援し、責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>①生徒一人ひとりが安心して学び、自己肯定感を高められる学校環境の実現を目指し、組織的な生徒指導・支援体制を強化する。</p> <p>②部活動を通して、主体性や責任感、連帯感の涵養を促し、集団活動の充実及び自己実現を図る。</p>	<p>①いじめ・暴力の未然防止と早期対応に重点を置き全職員による情報共有と早期発見及び迅速対応の仕組みを確立。年2回のアンケートを通じて、生徒の不安や悩みを早期に把握する。</p> <p>②活動実績の他、各部、各個人が、目標達成や自己実現に向けて、計画性を持って活動できたか。(担当者及びアンケートによる評価)</p>	<p>①いじめや暴力、不登校などの未然防止・早期対応が組織的に行われているか。(いじめアンケートやSC等の利用率での数値確認)</p> <p>②活動発表の場や、部活動説明会、部活動表彰等を充実させ、部活動の活性化を図る。</p>					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①様々な教育活動をとおして、生徒が主体的に進路目標を定め実現していく力を育成する。	①生徒自身が進路について考え、行動を起こせるように進路行事の開催、進路情報の提供を行う。	①生徒の進路意識を強化するために進路説明会や校内模試の事前・事後指導を実施する。校外の活動や制度について classroom やガイダンスルーム掲示により告知する。	①生徒の校内模試への理解を深め、取り組みが向上したか。校外の活動や制度の利用件数が増加したか。	②teams での情報提供や報告会をとおして、生徒の進路状況への理解が深まったか。				
		②キャリア発達課題を意識した進路指導の実現のため全職員へ向け進路情報の整理・提供や生徒データの報告を行う。	②より円滑で有効な進路指導の実現のため全職員へ向け進路情報の整理・提供や生徒データの報告を行う。	②校内模試の結果を有効に活用するために職員向けデータ分析報告会を行う。進路情報を teams 上で共有する。	②teams での情報提供や報告会をとおして、生徒の進路状況への理解が深まったか。					
4	地域等との協働	①地域資源を活用した教育活動を行い、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。	①授業やグローバル教育に係る行事等で外部資源と連携・活用し、探究的に社会問題に向き合い、多角的に思考する力の育成を図る。	①外部講師や他校の生徒を招き、社会問題を議論する行事を実施する。国際交流行事については、持続可能な実施を目指す。	①自ら課題を見出し、多角的に思考しようとするとする生徒の意識を醸成することができたか。(講演の振り返り、生徒による授業評価)	②地域・保護者参画行事の実施回数や地域課題解決型学習の実施回数が増加しているか。				
		②家庭、地域社会等との連携・協働により、持続可能な社会の創造を図る。	②学校・家庭・地域が相互に連携・協働し、地域住民や多様な団体の参画を得て、子どもたちが地域社会の一員として持続可能な社会づくりに主体的に関わる態度や実践力を育成する。	②地域住民や関係団体と連携した体験活動や学習活動（環境保全、防災、福祉、伝統文化、地域清掃など）を年間計画に位置付けて実施する。	②地域・保護者参画行事の実施回数や地域課題解決型学習の実施回数が増加しているか。					
5	学校管理 学校運営	①社会の変化に対応し、柔軟かつ迅速に教育課題に取り組み、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。	①保護者及び地域から信頼を得られるようホームページや説明会等の内容を充実させ、社会との関係を構築する。	①ホームページ更新の頻度を上げ、掲載情報も充実させるとともに、学校説明会等で提供する情報の最適化に努める。	①ホームページで教育活動の周知ができるか(アクセス数)。効果的な説明会を実施できていたか(アンケート)。	②各グループで改善点があったか。校務分掌の満足度や実感値で実効性を確認する(アンケート、ヒアリング)。				
		②教育計画とのバランスを図り、教員の働き方改革を進める。	②教育計画と整合性を保ちつつ、校務の適正化、教員の負担軽減、ワークライフバランスの改善に向けた業務改革を具体的に進める。	②業務の精選と ICT 化による効率化、職員間での業務分担の明確化と協働の仕組みづくりを各グループで行う。	②各グループで改善点があったか。校務分掌の満足度や実感値で実効性を確認する(アンケート、ヒアリング)。					